

ごあいさつ

青く澄んだケラマブルーの海と空、深い緑に覆われた豊かな自然の残る陸域、彩とりどりのサンゴに囲まれた命の息吹を感じる島、渡嘉敷島。

この度、この素晴らしい自然に囲まれた国立沖縄青少年交流の家第18代所長として就任いたしました山里 望です。青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たすため、地域の社会教育関係団体等との絆を広げ、共に手を取り合いながら青少年の抱える課題と向き合い取り組んでいく所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

さて、変化の激しい、予測困難な時代を担う青少年の教育は、その時代を生き抜くため知識と創造性が大切だと感じます。しかしながらそのインプットされた力をアウトプットするためには人とのつながりと実体験が必要不可欠です。学校教育、家庭教育で培った知識と創造性を活かす場が社会教育施設であり、生涯学習の意義を踏まえた体験的な学習を積み重ねていくことが未来を担う青少年の生きる術となると信じています。

私たち青少年教育施設は、その機能を果たすため、学校はもとより地域の公民館活動や自治活動等、青少年の自立を支える様々な団体との連携、連動をとおした諸活動を展開し、困難に立ち向かう知恵を活かした創造性溢れる、心豊かな青少年の育成を目指し諸事業を推進し、人とのつながりを大切にできる主体性に満ちた人材が明るい未来を創造する源となることを願っています。

活動の拠点となる当施設を紹介します。

1972年（昭和47年）沖縄本土復帰の年、当時の文部省直轄の国立施設「国立沖縄青年の家」として米軍ミサイル基地の跡地に平和を希求する思いを寄せて設置されました。現在は独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立沖縄青少年交流の家として運営され2022年に開所50年という節目の年を迎えます。

当施設の位置する渡嘉敷島は那覇市より西方約32キロに位置する慶良間諸島の中で最も大きな島です。慶良間諸島は大小30余りの島々と数多くの岩礁からなる島しょ群で、2014年3月5日（サンゴの日）に31番目の国立公園として指定されました。

透明度の高い海域景観、多様なサンゴが高密度に生息するサンゴ礁、ザトウクジラの繁殖海域、多島海景観、白い砂浜、海食崖とそこに発達した風衝地特有の植生など、海と陸が連続した多様な景観を有します。

当施設の海洋研修場では、その景観を満喫するスノーケリングやカヌー、カヤックなどの魅力あふれる海洋研修、そしてそこに隣接したテントサイトでの宿泊研修や野外研修を提供しています。

また、本館宿泊施設は島で最も高い赤間山（通称にし山）に位置し、沖縄本島、慶良間・粟国諸島そして久米島を眺望する優れた景観、朝陽、夕陽の照らす海の絶景、夜空を照らす満天の星と海に浮かぶ街明かりのコントラスト、時間の織り成す彩鮮やかな空間で最高の感動が研修意欲と生きる力を湧き立てます。

このような美しい自然の中で海洋研修をはじめとする素晴らしいロケーションを活かした様々な体験学習のプログラムを提供し、青少年の自立に向けた創造性や主体性を育む事業を展開します。

新たな自分発見！ とびっきり最高の感動体験！ マリンブルーとかしき